

2014年3月期 第3四半期決算説明会Q&A

【2014年3月期Q3実績、通期見通し】

Q: 受注高が前年同四半期比で大幅に増加した要因は

A: 北米を中心にモバイルR&D関連の案件が増加した。
北米はインフラ関連投資も堅調であり、大きなトレンドに変化はない。

Q: 業績予想修正により、売上高は据え置いているが、第4四半期の売上見通しの確度は

A: 第3四半期の受注残は161億円に積み上がっているが、見通しの達成に必要な第4四半期の期中受注・売上水準は高い水準であり、リスクもある。達成に向けて取組みを強化する。

【市場動向】

Q: 計測事業のモバイル開発、製造市場の動向は

A: 開発用途の売上比率が増加傾向にあり、継続的な技術進展やプレイヤーの増加を背景に今後もこの傾向が継続すると見ている。
製造市場では、LTE対応の需要が多くを占めるようになっているが、継続的な価格低下圧力とともに、顧客の生産効率化に向けたソリューション競争の激化により単価が低下傾向にある。

Q: 日本市場の縮小は底入れしたのか

A: 前年同期比での縮小幅は減少しているが、依然としてリスクはある。
オペレータのインフラ投資に回復の兆しが出てきているが、端末ベンダーの動向には不確実性もある。M2Mなどモバイルを活用した新たな社会インフラに向けたテーマへの取組みを進める。

【中期経営計画 GLP2014の達成に向けた見通し】

Q: 中期経営計画(GLP2014)の達成見通しについてどう考えているか

A: グローバルなプレイヤーとの関係強化は進んでおり、ビジネス拡大に向けた投資の成果が現れ始めている。これを加速させるのが来期のテーマになる。
一方で、日本市場の縮小影響が大きい。中計の利益水準はチャレンジングだが、北米・アジア地域を中心とする海外でのビジネス拡大を軸として、達成に向けて来期の計画を策定中である。

Q: 海外のサポート体制強化は今後も継続するのか

A: 将来のビジネス拡大に向けた先行的な強化は一段落している。今後はサポートの効率化と併せ、顧客の増加やビジネス拡大に合わせて必要な体制作りを行っていく。

Q: 中国のTD-LTEに関連する需要見通しは

A: 開発需要は既に出てきているが、TD-LTE単独のソリューションではなく、2G,3G,FDD-LTEを含めたソリューションによるビジネスであり、モバイル開発市場における1つのドライバーとなる。
TD-LTEは中国に限らずグローバルプレイヤーのテーマであり、需要は欧米でも出てくる。端末生産の本格的な立ち上がりはFY2014後半以降を想定している。